

オオワシの概要



1. 分類

- ・タカ目タカ科 オオワシ
(学名 *Haliaeetus pelagicus*)
- ・絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2020)

2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・全長約 85~94cm、翼開長 220~250cm の大型のワシ類。
- ・越冬地は北海道、本州北部、ロシア沿岸地方、カムチャツカ半島南部、千島列島。
- ・越冬地では魚類、海鳥類、海棲哺乳類の漂着死体などを食物とし、また、スケトウダラ漁等から供給される魚にも大きく依存。
- ・越冬地では海岸や湖沼近くの針広混交林をねぐらにしている。

3. 分布状況

- ・ロシア極東及び日本に分布。
- ・繁殖地はロシア極東オホーツク海沿岸、カムチャツカ半島、サハリン北部。繁殖地の中心はカムチャツカ半島で、約 1,200 つがいが繁殖しているといわれている。また、サハリン北部の繁殖つがいは、70~80 つがいといわれている。

4. 現在の生息数

- ・種としての総個体数は約 3,600~4,670 羽と推定、減少傾向にある (IUCN、2021)。
- ・国内で越冬するオオワシは北海道東部を中心に約 800~1,500 羽 (オジロワシ・オオワシ合同調査グループ及び環境省による調査、2010 年~2020 年度結果より)。

5. 生息を脅かす要因

- ・河川、湖沼、海岸の開発による餌資源の減少。
- ・森林伐採によるねぐらの減少。
- ・エゾシカ猟に使用された鉛弾を死体とともに採餌することによる鉛中毒。
- ・事故死したエゾシカを路上や線路上で採食することによる二次被害 (衝突死)。
- ・電線における感電死。
- ・風力発電施設でのバードストライクによる衝突死。

6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・平成 5 年、国内希少野生動植物種に指定。
- ・平成 17 年、保護増殖事業計画 (文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省) を策定。
- ・平成 19 年、旭山動物園 (旭川市) で人工ふ化に成功。
- ・円山動物園 (札幌市) では繁殖・野生復帰技術の調査研究や他の研究・活動機関との情報交換などを目的とした「オオワシプログラム」を実施。
- ・保護増殖事業で越冬状況調査や餌資源調査等を実施しているほか、日口渡り鳥条約に基づくオオワシ共同調査を実施。
- ・鉛中毒防止のため、道内ではエゾシカ猟への鉛弾使用が条例により規制されている。
- ・風力発電施設バードストライク防止策の検討・実施の手引きを改訂 (令和 4 年)
- ・列車事故防止のため、JR と協力してエゾシカ死体覆隠シートの開発などを実施。
- ・傷病個体 (死体を含む) を保護・回収し、原因究明を行い、対策に活用。

7. 他法令による保護の状況

- ・昭和45年、天然記念物に指定。

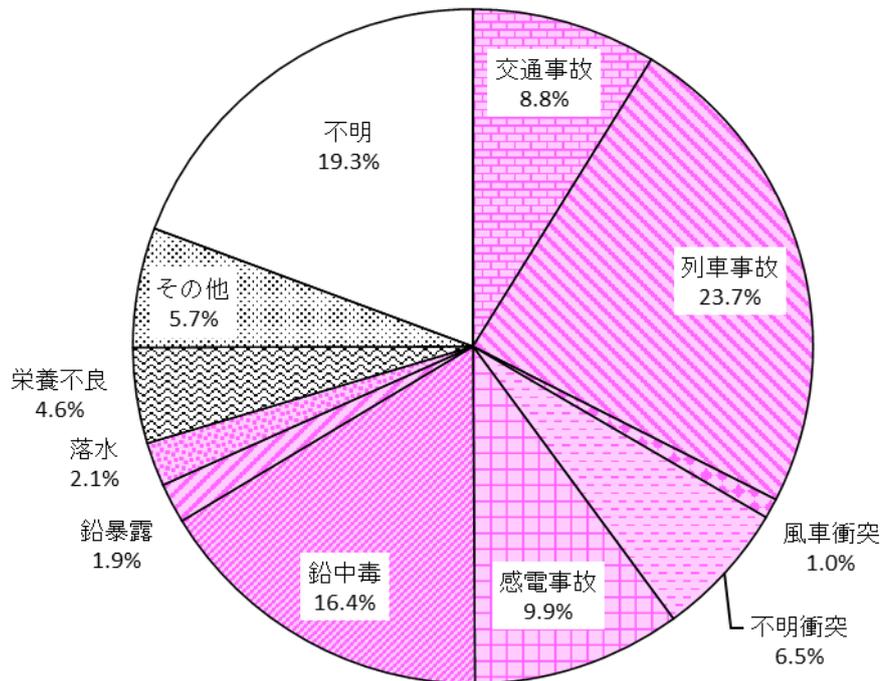


図1 オオワシ收容要因別割合 (H12-R6年度)

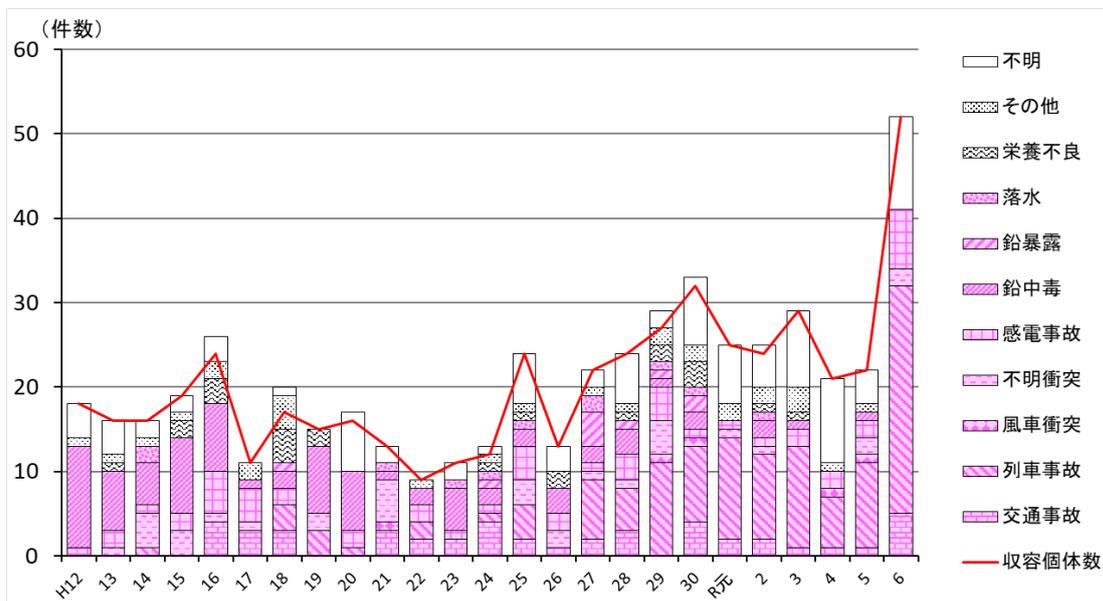


図2 オオワシ年度別收容件数 (H12-R6年度)

※ピンクで示しているのは人為活動が原因となるもの

※各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があることによる。